



指揮／井上道義

ベートーヴェン「第九」

2010年4月29日、京都会館の50歳の誕生日を記念し、京都会館での京響最後の定期演奏会のタクトを振った元京響音楽監督井上道義と世界で活躍する歌手たち、そしてこの日を祝うべく公募により編成された、「祝典第九合唱団」の共演による、50年前の開館記念コンサートと同じ曲ベートーヴェン「第九」が実現。二度とないパワフルな「歓喜の歌」をお聴きのがしなく。

2010年4月29日(木・祝)
13:30開演(13:00開場)
京都会館第一ホール
入場料(全席指定)／一般 2,000円

※未就学児の入場はご遠慮ください。

© K.miura

管 弦 楽／京都市交響楽団
ソリスト／菅 英三子 (ソプラノ)
加納 悦子 (メゾソプラノ)
米澤 傑 (テノール)
三原 剛 (バリトン)
合 唱／京都会館50周年祝典第九合唱団

プログラム

【式典】

京都会館 開館50周年記念式典

【祝典コンサート】

ベートーヴェン：序曲「コリオラン」op.62

ベートーヴェン：交響曲第9番ニ短調「合唱付」op.125

抽選で京都市民400名様を御招待！

必ず往復ハガキでお申し込みください。(ハガキ1枚につき1名様)
申込方法：①住所 ②氏名 ③年齢 ④電話番号 ⑤返信ハガキに宛先を明記の上、下記までお申し込みください。
申 込 先：〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-26
「京都会館開館50周年記念式典・祝典コンサート」係
申込期間：3月1日(月)～20日(土) 当方必着
当選発表：3月中に抽選結果を印刷した返信ハガキを発送します。

チケット
取り扱い

チケット発売／2010年2月12日(金)

京都会館プレイガイド 075-771-6056
京都コンサートホール 075-711-3090
電子チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード348-062]
お問合せ：京都コンサートホール 075-711-2980
京都会館 075-771-6056
主催：京都市・財団法人京都市音楽芸術文化振興財団
協力：京響市民合唱団



©Benjamin Lee

指揮 井上 道義

Conductor: Michiyoshi INOUE

1946年東京生まれ。桐朋学園にて齋藤秀雄氏に師事。1971年グイド・カンテルリ指揮者コンクールに優勝、一躍内外の注目を集め、国際的な活動を開始。1983～88年新日本フィル音楽監督、1990～98年京都市響音楽監督、常任指揮者を歴任。シカゴ響、ロイヤル・フィル、ベルリン、ハンブルク等の放送交響楽団、ミュンヘン・フィル、ドレスデン・フィル、フランス国立管、スカラ・フィル、ロシア国立響、レニングラード響、ホルティモア響などに客演。1999～2000年、マーラーの交響曲全曲演奏会を新日本フィルと行い「日本におけるマーラー演奏の最高水準」と高く評価された。オペラでは、1984年藤原歌劇団《蝶々夫人》を指揮しデビュー。1999～2001年、Bunkamuraとエディンバラ国際フェスティバルの共同公演《トゥーランドット》、2000～03年新日本フィルとコンサート・オペラ・シリーズ、《道化師》&《カヴァレリア・ルスティカーナ》、《死の都》、《ナクソスのアリアドネ》、新国立劇場《運命の力》、東京芸術劇場シアター・オペラ《イリス》など、常にセンセーショナルな成功を収めている。2007年には日露5つのオーケストラとともに「日露友好シオスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクト2007」を東京・日比谷公会堂にて開催。音楽・企画の両面で大きな成功を収めた。2007年1月よりオーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督ならびに石川県立音楽堂アーティストック・アドバイザー。

<http://www.michiyoshi-inoe.com/>



京都市交響楽団

Kyoto Symphony Orchestra

京都市交響楽団（京響）は、1956年の創立以来、日本唯一の自治体直営オーケストラとして「市民文化の形成と青少年の情操の向上、住民の福利の増進に資する」という理念に基づいて、我が国を代表するオーケストラとして成長を遂げてきた。06年には創立50周年を迎え、シェーンベルク《グレの歌》京都初演、国内7都市へのコンサート・ツアーなどで成功をおさめた。また、楽器講習会や音楽鑑賞教室、福祉施設への訪問演奏などにも積極的に取り組み、07年「第25回京都府文化賞特別功労賞」「京都創造者大賞2007」受賞。08年4月からは、第12代常任指揮者に広上淳一、桂冠指揮者に大友直人が就任。09年は、「スプリング・コンサート」や「オーケストラ・ディスカバリー」など新たな企画で注目を集め、半世紀という節目を経て、「京響」は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」を目指して更なる前進をはかっている。

菅 英三子 Emiko SUGA (ソプラノ)



京都市立芸術大学・ウィーン国立音楽大学を首席卒業。佐々木成子氏に師事。フランシスコ・ビニャス国際音楽コンクール“コロラトゥーラ・ソプラノ賞”、A.クラウス国際音楽コンクール第2位、ウィーン国際新進オペラ歌手コンクール第1位、藤沢オペラコンクール第1位及び福永陽一郎賞、出光音楽賞、青山音楽賞、芸術祭賞新人賞、新日鉄音楽賞等受賞多数。91年、現プラハ国立歌劇場《後宮からの逃走》でオペラ・デビュー以来、同歌劇場、プレーマーハーフェン市立劇場、ブルノ国立歌劇場、バームビーチ・オペラ、夏季音楽祭等のオペラ公演の他、マドリッド、ウィーン、フランクフルト放送交響楽団、ボストン交響楽団等のソリスト、また、日本国内でのオペラ公演やオーケストラ定期演奏会等、国内外で幅広く活躍。卓越したコントロール・テクニックと安定した歌唱は、共演指揮者からの信頼も厚く常に高い評価を得ており、ソリストとして欠かせない存在である。京都市立芸術大学准教授。

加納 悦子 Etsuko KANO (メゾ・ソプラノ)



東京芸術大学大学院を修了。ドイツ国立ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。同大学在籍中にケルン市立歌劇場オペラスタジオ研修生を経て同歌劇場専属歌手として契約。ザルツブルク国際モーツァルトコンクール声楽部門2位入賞。ケルン歌劇場では《フィガロの結婚》、《蝶々夫人》、《ヘンゼルとグレーテル》など40以上の演目に出演。ほか、シュトゥットガルト国立歌劇場、シュヴェツィンゲン音楽祭、ベルギー・フランドルオペラ、ゲルギエフ・フェスティバル、ザンクトガレン歌劇場などにも出演し高い評価を得ている。コンサートに於いてもNHK交響楽団をはじめ主要オーケストラとC.デュトワ、H.プロムシュテット、G.アルブレヒトなど著名な指揮者と共演。近年では08年びわ湖ホール・神奈川県民ホール《ぼらの騎士》、09年東京二期会《カプリッチョ》に出演し深い音楽性と安定した歌唱で観客を魅了したのは記憶に新しい。二期会会員。

米澤 傑 Suguru YONEZAWA (テノール)



鹿児島大学医学部卒業。同学部教授。松本美和子氏他に師事。日伊コンコロソ入選、太陽コンコロソ・カンツォーネ・イタリアーナ優勝、日本クラシック音楽コンクール第1位グランプリ。蝶々夫人やカルメンの主役、第九、メサイア、ヴェルディ《レクイエム》、ロッシニー《スタバト・マーテル》、NHKテレビ「第九をうたおう」（井上道義指揮）等のソリスト。02年ルーマニアで「最高のテノール」、04年東京紀尾井ホールで「マリオ・デル・モノコの声を持つ医学部教授」と話題になる。04年と05年東京芸術劇場でのイタリアの世界的テノールとの共演。05年イタリアと日本（ベリオ版・日本初演、若杉弘指揮）での《トゥーランドット》のカラフ王子で大絶賛を博す。06年NHK芸術劇場「二つの顔を持つ音楽家」、08年メンデルスゾーン《最初のワルプルギスの夜》(G. ボッセ指揮)、09年NHK「ラジオ深夜便」の「ないとエッセー」等に出演。「誰も寝てはならぬ/米澤 傑 テノール・オペラアリア集」(G. ステューファノ指揮・ソフィア国立歌劇場管)はタワーレコードヒットチャートで度々第1位を獲得するなど話題のソリストである。

三原 剛 Tsuyoshi MIHARA (バリトン)



91年日伊声楽コンコロソ金賞受賞。92年日本音楽コンクール第1位、同時に増沢賞、福沢賞、木下賞、松下賞受賞。93年五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、五島記念文化財団奨学生としてケルンに留学。05年ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンや、06年ヘンツェ《午後の曳航》で、ザルツブルク音楽祭、フィルハーモニー（ベルリン）、オーディトリウム（トリノ）に出演と目覚ましい活躍が続いている。バッハ、ヘンデルなど、バロック期の宗教音楽を中心に、モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェン、ブラームス、フォーレ、ヴェルディ、プッチーニ、マーラー、オルフなどを歌い、レパートリーは幅広い。第9回新・波の会日本歌曲コンクール第1位及び四家文子特別賞、第7回グローバル東敦子賞、平成17年度大阪文化祭賞受賞。バリトン・カヴァリエーレ（騎士的バリトン）と評される豊かで気品に溢れる声は、国内外において多くの賞賛を集めている。